

平成24年 7月 2日 【月曜日】

地域交流授業で成果

星槎国際高の札幌学習センター

防災カルタや広報誌づくり

星槎国際高校の札幌学習センター（武内隆央センター長）は、地域交流授業「ハッピーハート」に取り組み成果を上げている。東日本大震災を振り返り、子どもからシルバーク世代まで地域に暮らす人々とともに災害に強い街づくりを考えようという内容。本年度は同校札幌学習センターを構える桑園地区の児童会館とも連携し、生徒たちが地域の人々と「防災カルタ」や、広報誌の作成などを行っている。

この活動は、同校札幌学習センターを拠点にし「地域のみまもり・まちづくりをしよう」をテーマに、地域住民とともに防災に対する備えや心構えなど心の

防災を学ぶもの。東日本大震災発生後の昨年五月から、授業を本格化した。本年度は、その成果をもとに桑園地区の児童会館と



の連携もテーマとして、地域住民や桑園児童会館を利用する子どもたちと分担して「防災カルタ」を作成している。

また、活動を多くの人に知ってもらうため、広報誌「ハッピーハートかわら版」の発刊も決定。六月二十

二日には地域住民をきめ十四人が参加し、「かわら版」作成のため初めて具体的な打ち合わせを行った「写真」。

同センターは「防災のためには様々な団体・個人がかかり合い、助け合っていくことが必要、ハッピーハートにより、活動の輪が広がってきています」と活動の成果を挙げる。「星槎の三つの約束にある、人を認める、人を排除しない、仲間をつくる」機会をハッピーハートが担ったから幸いです」と話している。

また、活動を多くの人に知ってもらうため、広報誌「ハッピーハートかわら版」の発刊も決定。六月二十